

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）第6回総会

山田外務政務官による冒頭挨拶（案）

（平成28年1月16日）

アミンIRENA事務局長，代表団の皆様，

- 本日は，昨年議長国として，IRENA総会に出席できることを大変光栄に思います。我が国が議長を務めていた間の代表団の皆様のご協力に心より御礼申し上げます。また，IRENA事務局の献身的な取り組みにも感謝申し上げます。さらに，アル・ジャーベル国務相をはじめとするUAE政府関係者のご支援に御礼申し上げます。
- 日本がIRENA議長国となった2015年は，人類及び地球にとって大きな転換点でした。9月には持続可能な開発のための2030アジェンダが国連サミットで採択され，「2030年までに世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる」とのターゲットが掲げられました。また，12月にパリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において，すべての国が参加する，公平かつ実効的な枠組みが採択された感動的な瞬間も，記憶に新しいところです。
- 2016年は，2015年の大きな成果に基づき，目標達成に向けた行動に移していく重要な年です。

（我が国の貢献（2015年の再エネ関連取組実績など））

- 日本は再生可能エネルギー分野での国際協力を強化してきました。
- 財政面では，REthinking Energy，REmap2030，蓄電池技術ロードマップの作成，再生可能エネルギー潜在可能性調査（RRA：Renewables Readiness Assessment）等に対し任意拠出金69万2千ドルを，また，バイオマス分野でも任意拠出金20万8千ドルを拠出しました。
- 知的貢献としては，昨年3月，IRENA及びASEANエネルギーセンターとの共催で，スマートグリッドに関する円卓会議を日本で開催しました。また，昨年6月には，太平洋島嶼国における再生可能エネルギー利用の最適化をテーマとした国際セミナーを東京で実施し，8月には，IRENAと共

催で、小島嶼開発途上国（S I D s）やアジア各国を対象にプロジェクトへのファイナンス方途に関する国際ワークショップをマレーシア・クアラルンプールで実施しました。

- 人材育成面では、太平洋島嶼国やアフリカを対象とした研修事業を沖縄で実施しています。来月には、I R E N A と共催で「アジア太平洋島嶼国における再生可能エネルギー導入支援研修」を東京で実施予定です。この研修を通じてアジア太平洋島嶼国での再生可能エネルギー導入の能力を強化し、安定的なエネルギー供給と低炭素社会の実現に貢献していきます。
- また、気候変動問題全体との関連では、日本はC O P 2 1にて、2 0 2 0年に官民あわせて年間約1兆3千億円の気候変動関連の途上国支援を行うこと、革新的技術開発を強化していくこと等を発表しました。今後も引き続き温暖化問題の解決に貢献していきます。

（結び）

- 各国のエネルギー政策や気候変動への取組を実施する上で、I R E N A の果たす役割は極めて重要であり、日本は、I R E N A との協力関係を一層発展させられるよう努めて参ります。
- 今次総会の開催にご尽力いただいた、アラブ首長国連邦政府、アミン事務局長をはじめとするI R E N A 事務局の皆様にあらためて敬意を表するとともに感謝申し上げ、また新エジプト議長下による今次総会の成功を祈念して、私からの発言といたします。

（了）